(1) 宋永淑 . 特集 , アジアの図書館事情 : 韓国の図書館と読書教育 . 現代の図書館 . 1996, 34(4), p. 175-180.
(2) 朴鍾振 . 特集 , いま、韓国の子どもの本と読書は : 韓国の子どもの本と読書事情 . 子どもと読書 . 2009, (376), p. 2-6.
(3) 金重喆 . アジアの読書運動 韓国における児童読書文化運動の流れと展望(1). 下橋美和訳 . 子どもの本棚 . 2000, 29(8), p. 16-21.
(4) この 2008 年に策定された計画は、以下に詳しい。
河本彩子 . 政府主導で急速に進む読書環境整備 . 読書推進運動 . 2008, (491), p. 6.
(5) 読書活動に困難を伴う人々を広く指す。
(6) 2007 年 5 月、図書館行政は国立中央図書館から文化観光部（当時）へと移管された（CA1635 参照）。
(7) 문화체육관광부 . 독서문화진흥기본계획 관련 문화체육관광부 중점 추진과제 . 2008, 2p.
http://www.mcst.go.kr/web/notifyCourt/press/mctPressView.jsp?pSeq=9301, (参照 2010-02-19).
(8) “ 독서장애인도서관진흥법안 ”. 대한민국국회 의안정보시스템 .
http://likms.assembly.go.kr/bill/jsp/BillDetail.jsp?bill_id=PRC_Y0A9A1G1M2L0C1U5T5H3M3F8R6H6Y1, (参照 2010-02-19).
(9) [이 의원 , 이 법안] 한나라 정병국 의원 , 독서장애인도서관 진흥법 . 동아일보 . 2009-11-24, A8 면 .
http://news.donga.com/3/all/20091124/24313120/1, (参照 2010-02-15).
(10) 市民団体やマスメディア、出版界や書店の活動については、CA1635 や E387 及び以下のもので言及されている。
舘野晳 . 海外出版レポート 韓国 ユニークな読書振興運動の始まり . 出版ニュース . 2008, (2156), p. 24.
(11) 例えば、以下のものなどがある。
어린이날 ' 독서 퀴즈대회 ' 무등도서관 . 무등일보 . 2009-04-27.
[원주] 시립도서관 독서퀴즈 진행 . 강원일보 . 2009-04-09, 18 면 .
http://www.kwnews.co.kr/nview.asp?s=501&aid=209040800047, (参照 2010-02-15).
대구 남부도서관 , 매월 어린이 독서퀴즈 개최 . 매일신문 . 2009-02-03, 17 면 .
http://www.imaeil.com/sub_news/sub_news_view.php?news_id=4982&yy=2009, (参照 2010-02-15).
(12) 例えば、以下のものなどがある。
宋永淑 . 特別講演 韓国の図書館の児童サービスと家族読書 . 同志社大学図書館学年報 . 2009, (35), p. 16-33.
‘ 독서의 달인 ’ 에게 듣는 책읽는 비법 : ‘ 추적놀이 ’ 하며 도서관과 친해지기 . 경향신문 . 2009-10-27, 25 면 .
http://news.khan.co.kr/section/khan_art_view.html?mode=view&artid=200910261735075&code=900314, (参照 2010-02-15).
중봉도서관 독서 캠프 참가자 모집 . 내일신문 . 2009-09-17, 25 면 .
http://www.naeil.com/news/NewsDetail.asp?nnum=497033, (参照 2010-02-15).
[춘천] 춘천시립도서관 에코독서캠프 운영 . 강원일보 . 2009-07-24, 16 면 .
http://www.kwnews.co.kr/nview.asp?s=501&aid=209072300127, (参照 2010-02-15).
(13) 例えば、以下のものなどがある。
' 독서의 계절 ' 도서관 여행 . 인천일보 . 2009-09-04, 6 면 .
장유도서관 독서프로그램 운영 . 경남신문 . 2009-09-12.
http://www.knnews.co.kr/?cmd=content&idx=832867, (参照 2010-02-15).
(14) 例えば、以下のものなどがある。
진해 시립도서관 이달의 독서왕 운영 . 경남도민일보 . 2009-12-01.
http://idomin.com/news/articleView.html?idxno=304087, (参照 2010-02-15).
가을만난 한밭도서관 풍성한 독서잔치 한마당 . 중도일보 . 2009-09-30, 12 면 .
http://www.joongdoilbo.co.kr/jsp/article/article_view.jsp?pq=200909290018, (参照 2010-02-15).
〈영동〉 도서관 없는 시골학교 ' 독서 열풍 '. 중부매일 . 2009-09-16, 17 면 .
http://www.jbnews.com/news/articleView.html?idxno=246777, (参照 2010-02-15).
(15) 例えば、以下のものなどがある。
장수도서관 독서의 달 인형극 공연 . 새전북신문 . 2008-09-24.
http://www.sjbnews.com/news/articleView.html?idxno=276296, (参照 2010-02-15).
작가 만나볼까… 낭독회 가볼까… 독서퀴즈 나가볼까…‘ 가을 책잔치 ’ 뷔페처럼 즐기세요 . 동아일보 . 2009-09-16, A28 면 .
http://www.donga.com/fbin/output?n=200909160086, ( 参照 2010-02-15).
(16) 金重喆 . アジアの読書運動 韓国における児童読書文化運動の流れと展望 (2). 下橋美和訳 . 子どもの本棚 . 2000, 29(9), p. 16-20.
(17) 例えば、以下のものなどがある。
천안 중앙도서관 독서문화 프로그램 운영 . 충북일보 . 2009-09-23, 11 면 .
http://www.inews365.com/news/article.html?no=97183, (参照 2010-02-19).
(18) 例えば、以下のものなどがある。
`독서의 계절 ' 도서관서 알차게 보내요 . 중도일보 . 2009-10-06, 18 면 .
http://www.joongdo.co.kr/jsp/article/article_view.jsp?pq=200910050048, (参照 2010-02-19).
(19) 문화체육관광부 . 2008 년 국민독서실태조사 . 2008, 501p.

Ref:
문화체육관광부 . 2009 년도 독서진흥에 관한 연차보고서 . 2009, 261p.
문화체육관광부 . 독서문화진흥기본계획 . 2008, 44p.
http://www.mcst.go.kr/web/notifyCourt/press/mctPressView.jsp?pSeq=9301, (参照 2010-02-15).

## CA1706

# ドイツの読書推進活動
# —読解力向上のための取り組みとして—

### 1. ドイツの読書推進活動の特徴

連邦制をとるドイツでは、文化・教育に関する事項は州の所掌とされており、読書推進の分野においても連邦レベルでの法律は存在しない。しかし、実際の読書推進活動においては、州政府・学校・その他の機関の協同で全国規模のプロジェクトが数多く実施されている。その大きな特徴は、楽しみとしての読書、教養としての読書というよりは、読解力・批判的思考力・情報利用力を向上させるための読書に重点が置かれているということである。そして、それを達成するためにこそ、読書へと誘うための創意工夫に満ちた「楽しい」取り組みが、主に子どもを対象に行われている。

ドイツは戦後、トルコをはじめとする近隣諸国から積極的に移民を受け入れてきたが、移民のドイツ語力の向上は大きな課題となっていた。実際、2000 年に行われた「第 1 回 OECD 生徒の学習到達度調査」（PISA）[(1)]では、他国に比べて読解力の不足が明るみに出る結果となり、「PISA ショック」と言われた。これを打開すべく連邦政府の編集で 2007 年に報告された『読解力の促進』（Förderung von Lesekompetenz）[(2)]は、図書館等によって担われる読書振興活動を、読解力向上のための一手段と見なしている。学力低下という社会問題の存在と、それをむしろ好機と捉えた読書推進関係団体の積極的な取り組みが、ドイツの読書推進活動の 2 大原動力と

なっていると言えよう。以下、その具体例を紹介することでドイツの読書推進活動の状況を概観したい。

## 2. 読書基金

ドイツの読書推進活動において中心的役割を果しているのが、1988年に設立された「読書基金」(Stiftung Lesen)[3]である。読書に関する調査研究を行う一方、常時数十ものプロジェクトを展開・支援し、ウェブ上で募集、紹介、報告を行っている。最大のプロジェクトは、ドイツ鉄道や『ツァイト』（Zeit）紙と提携して毎年11月に開催される「読み聞かせの日」である。毎年8,000人もの人々が、街で、駅で読み聞かせを行い、その状況がテレビや新聞で報道される大規模なイベントであるが、これついては既に日本語での紹介[4]があるため、ここではそれ以外の特色あるプロジェクトを3つ紹介する。

1つ目は、子どもがコンピュータゲーム等のソフトウェアを審査するコンテスト「トミー」（TOMMI）[5]である。ゲームに関心のある子どもたちは、各都市の図書館を通して審査員に応募する。資格を得た子ども審査員は、図書館のプレイステーション・ポータブルやWiiといったゲーム機（ドイツでは図書館でのコンピュータゲームの提供は珍しいことではない）で、ノミネートされたゲームソフトをテストし、優劣を決める。優秀作品はフランクフルトブックフェアで表彰される。良いゲームを広めること、ゲームへの批判的なかかわり方を子どもたちに教えることを目的としているが、子どもが興味を抱くものを積極的に取り入れていこうとする図書館の柔軟な発想が見られる。

2つめは、ビデオ投稿サイトYouTubeを利用した取り組み「360度みんな読書人」（360-Grad-Leser）[6]である。子どもたちは、一人であるいは友達と、自分の好きな本や雑誌などを紹介するビデオを、携帯カメラ、ビデオカメラ等で作製し、投稿する。YouTubeの評価機能で最も高い評価を得た投稿者には、賞が与えられる。

3つ目は、読書推進活動の企画そのものを競うコンテスト「アウスレーゼ」（Auslese）[7]である。模範とすべき活動やアイデアを広めることを目的に、2年に1度、いくつかの部門ごとに優れた読書推進活動を選び、表彰する。たとえば2009年には「優れた市民活動」の部門で、本に世界を旅させる活動であるブッククロッシング（E683参照）のための本棚を街路樹に設置した建築業関連団体や、宇宙旅行に見立てた小学校の読書運動（クラスの全生徒が本を1冊読むとロケットの燃料が補充されるという設定など）を考案し実践した公共図書館などが表彰されている。ユニークな読書推進活動をさらに生み出していくための、いわば読書推進活動を推進する活動である。

## 3. 青少年審査員賞（ドイツ青少年文学賞）

ドイツで唯一国家の支援を受けて行われる読書推進活動として、「ドイツ青少年文学賞」[8]の一部門「青少年審査員賞」がある。「ドイツ青少年文学賞」は50年以上の歴史を持つ、ドイツで最も権威のある青少年文学賞であるが、文字どおり子どもたちが審査員となる同部門を2003年に新設した。州横断的な読書クラブの子どもたちで構成された青少年審査員が、前年に出版されたドイツ語圏の作品の中から最大6冊を選び、ノミネートする。最終的に選ばれた1冊は、フランクフルトブックフェアで表彰される。同世代の選んだ本に賞を与えることでより多くの関心を集め、読書推進につなげようという試みである。

## 4.「ドイツで読む」

上記「読書基金」や「青少年文学賞」の活動、各州の取り組みなど、ドイツの読書推進活動についての情報を集め、紹介するサイト「ドイツで読む」(Lesen in Deutschland)[9]についても触れておこう。州ごと、日付ごと、活動タイプごとに情報が整理され、検索もできるなど、さながら読書推進活動のデータベースとして機能している。分野を超えた連携を促進する役割を担っている。

## 5. 図書館による読書振興活動事例

最後に、筆者が2009年11月にゲーテ・インスティトゥート（Goethe-Institut）の奨学金でドイツを訪問した際に見学することのできた、個別の図書館の事例を紹介しておきたい[10]。

1つ目は、ケルンの市立図書館の事例である（上述の報告書『読解力の促進』によれば、類似した方法による推進活動はドイツでは盛んな模様）。子どもが図書館利用登録をすると、図書館は利用カードや本を持ち帰るための布製バッグとともに、1冊のカラフルなノートを手渡す（図参照）。子どもたちは、読み聞かせの催しに参加するたびに、聞いた物語の絵をノートに描いて図書館員に見せる。図書館員はそれによって、子どもたちが本当に理解したのかどうかを知るのだという。

もう1つは、ベルリンの、外国人が人口の37％を占める地域の小さな図書館の取り組み「ヴォルトシュターク」（WortStark）である。移民の子どもを中心に、幼稚園の10人以下のグループが図書館を訪れ、図書館員（やインターンシップの学生）とともに輪を作って座り、「歯ブラシ」「鍋」といった言葉

図　ケルン市立図書館で配布するバッグとノート

を、用意された実物を手に取りながら学習する（実際、子どもたちはこういった言葉も知らないことがしばしばある）。そしてその後にはじめて、それらの言葉が重要な役割を果たす絵本の読み聞かせを行う。いずれも背景には、単に聞くこと、あるいはそらんじることと「読解する」ということとのギャップに気づかされた「PISA ショック」の反省がある。子どもたち一人ひとりの読解力までにかかわろうとする、踏み込んだ取り組みである。

（総務部人事課：伊藤（いとう）　白（ましろ））

（1）2000 年の第 1 回調査では総合読解力において、ドイツは 31 か国中 21 位（日本は 8 位）であった。なお 2006 年の第 3 回調査では 56 か国中 18 位（日本は 15 位）。
OECD Programme for International Student Assessment (PISA).
http://www.pisa.oecd.org/pages/0,2987,en_32252351_32235731_1_1_1_1_1,00.html, (accessed 2010-02-18).
“OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）《2000 年調査国際結果の要約》”. 文部科学省 .
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/index28.htm, (参照 2010-02-18).
“OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）: 2006 年調査国際結果の要約 ”. 文部科学省 .
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/071205/001.pdf, (参照 2010-02-18).
（2）“Förderung von Lesekompetenz. Expertise”. Bundesministerium für Bildung und Forschung.
http://www.bmbf.de/pub/bildungsreform_band_siebzehn.pdf, (accessed 2010-02-18).
（3）Stiftung Lesen.
http://www.stiftunglesen.de/default.aspx, (accessed 2010-02-18).
（4）川西芙沙 . 子どもの本の現場より :「ドイツ読書基金」（Stiftung Lesen）について . JBBY. (102) , 2009, p. 77-79.
（5）TOMMI.
http://www.kindersoftwarepreis.de/, (accessed 2010-02-18).
（6）360-Grad-Leser.
http://www.youtube.com/360gradleser, (accessed 2010-02-18).
（7）Auslese.
http://www.stiftunglesen.de/projekte/auslese/default.aspx, (accessed 2010-02-18).
（8）Deutscher Jugendliteraturpreis.
http://www.djlp.jugendliteratur.org/, (accessed 2010-02-18).
（9）Lesen in Deutschland.
http://www.lesen-in-deutschland.de/html/index.php, (accessed 2010-02-18).
（10）ガンツェンミュラー文子 . 特集 , 21 世紀 子どもの読書活動推進のために : ドイツの読書推進活動 . JBBY. 2002, (95), p. 18-20.

## CA1707

# 英国の読書推進活動
# ―国民読書年を中心に―

英国では、ブックスタート事業（E480 参照）をいち早く始めたほか、読書推進事業を担う団体・組織が数多く存在するなど、読書推進活動が比較的活発に行われている（CA1498 参照）。本稿では、最も有名な活動の一つでもある「国民読書年」（National Year of Reading；以下「NYR」とする）を中心に紹介する。

### 1. 第 1 回国民読書年

英国では、1998 年 9 月から 1999 年 8 月にかけて、第 1 回の NYR が実施された。NYR が計画された背景には、読書離れによって当時の英国内の初等・中等教育を受ける児童・生徒のリテラシーが低下していることへの危惧があったとされている（CA1241 参照）。1997 年、当時の教育雇用大臣であったブランケット（David Blunkett）氏の発案により、子どもたちのリテラシーの向上と成人の生涯学習支援のために、読書推進活動を全国規模で行う NYR を翌 1998 年に実施することが決まった。

教育雇用省[(1)]から委託を受けた英国リテラシー・トラスト（National Literacy Trust）が中心となって結成されたプロジェクトチームは、NYR の開始前には、教育、図書館、スポーツ、ボランティア団体などさまざまな関係機関に働きかけて周知活動を行い、期間中は、ニュースレターやウェブサイトなどを使った情報提供の面において、各地の図書館、学校、コミュニティなどのイベントやキャンペーンをサポートするという役割を担った（CA1354 参照）。また、それらの活動に対する資金的なサポートも行っており、その総額は 80 万ポンド（当時のレートで換算して 1 億 5,000 万円ほど）にも上ったという[(2)]。

### 2. 第 2 回国民読書年

第 2 回の NYR は、第 1 回 NYR から 10 年が経過した、2008 年に実施された。その背景には、依然として、読書に対する意識の低さがあった[(3)]。2006 年に行われた読書に関する国際調査 PIRLS の結果によると、学校以外で楽しみとしてほぼ毎日読書をするイングランドの子どもの割合は 33％と、他の国と比較してかなり低かった。また 2001 年の調査結果と比較して、その割合には増加が見られなかった[(4)]。第 2 回 NYR の活動報告書『読書：その未来』（Reading: The Future；E915 参照）によれば、第 2 回 NYR の目的として、家庭やその他の場所での読書を推進す